

2026年7月1日

ウェザーニューズ、「ゲリラ雷雨」の予想発生回数を47都道府県別に発表  
2026年のゲリラ雷雨は昨年の25%増で約11万回予想 8月中旬がピーク  
～ゲリラ雷雨を事前に通知「ゲリラ雷雨アラーム」で対策をサポート～

株式会社ウェザーニューズ(本社:千葉市美浜区、代表取締役社長:石橋 知博)は、突発的かつ局地的に激しい雨や落雷をもたらす「ゲリラ雷雨」(※1)に対し、事前対策への意識を高め被害軽減につなげるため、「ゲリラ雷雨傾向 2026」を発表しました。7～9月のゲリラ雷雨は、全国で約11万回発生する予想です。発生回数は昨年や過去5年平均と比べて多く、発生のピークは8月中旬となる見込みです。

当社の予報センターでは、ゲリラ雷雨が多発する7～9月の間、今年もゲリラ雷雨予測の専任チームを構築し、体制を強化して日本全国のゲリラ雷雨をモニタリング・予測します。ウェザーニューズアプリのユーザーから届く雲や空の写真に加え、全国のライブカメラの映像から、AIがいち早くゲリラ雷雨の予兆を検出し、ゲリラ雷雨発生30分前までに「ゲリラ雷雨アラーム」をアプリで配信します。

毎年、突然の激しい雨やひょう、落雷などによる被害が全国各地で発生しています。ウェザーニューズでは、少しでも被害を減らすべく、継続的に情報を発信していきます。随時最新の雨情報をご確認ください。

ウェザーニューズウェブサイト「ゲリラ雷雨傾向 2026」

<https://weathernews.jp/news/202606/300231/>

#### ◆ゲリラ雷雨発生傾向 2026

<発生回数:全国の総発生回数は約11万回>

2026年7～9月のゲリラ雷雨は、全国で約11万回発生する予想です(図1)。発生回数は、約8.8万回発生した昨年と比較して多く、過去5年平均と比べても多くなる見込みです。北海道は1.4万回前後、東京都は1,300回前後、愛知県は1,800回前後、大阪府は500回前後となる見込みです。

雨雲の発生は山沿いがメインとなりますが、平野部(都市部)にも雨雲が流れ込んだり、直上で発生したりする場合があります。ゲリラ雷雨による短時間の激しい雨で、道路の冠水や河川の増水、落雷による停電や交通機関が麻痺するなど、様々な影響や被害が懸念されるのでご注意ください。

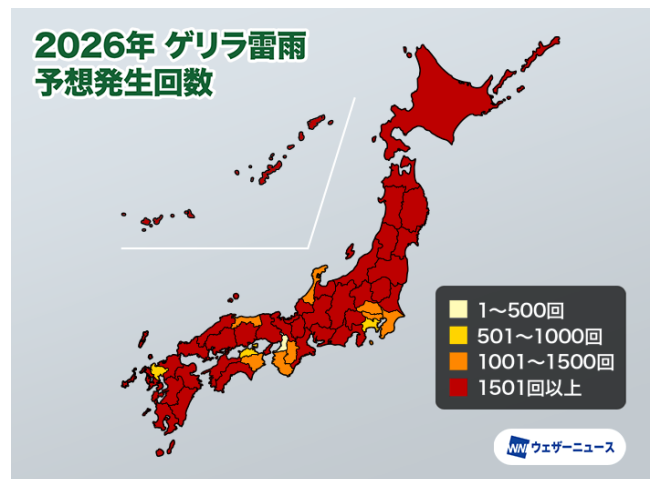


図1. ゲリラ雷雨 予想発生回数

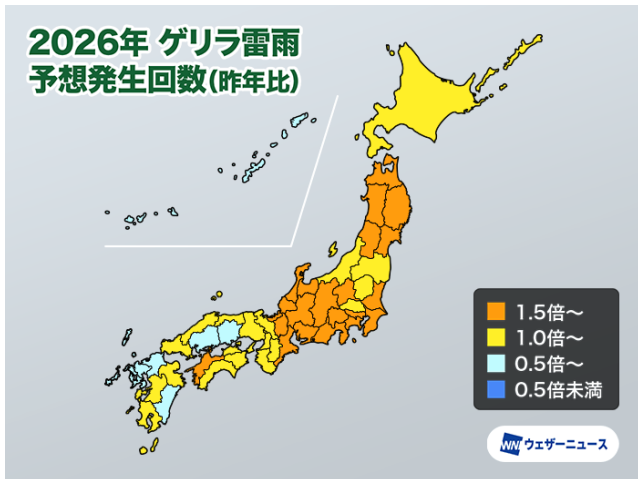


図 2. ゲリラ雷雨 予想発生回数(昨年比)

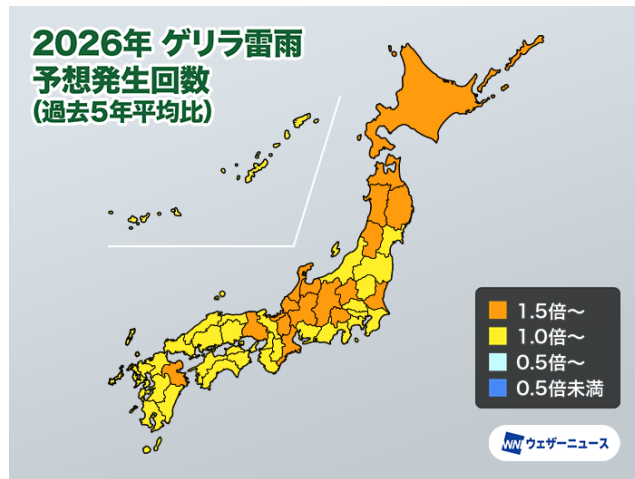


図 3. ゲリラ雷雨 予想発生回数(過去5年平均比)

<発生時期:発生ピークは8月中旬>

ゲリラ雷雨は、日中の気温上昇や上空の寒気、下層に湿った空気が流れ込むことで、大気の状態が不安定となり発生する現象です。今シーズンのゲリラ雷雨は、8月中旬が発生のピークとなる予想です(図4)。

7月下旬から8月上旬にかけて、日本付近は太平洋高気圧とチベット高気圧に覆われて晴れる日が多くなる予想です。この時期は高気圧の勢力が強いため、雨雲の発生が抑えられる日が多い見込みです。ただ、気温が平年よりも高くなることで大気の状態が不安定となり、山沿いを中心にゲリラ雷雨が発生する日があります。

8月中旬は一時的に高気圧の勢力が弱まり、湿った空気が流れ込みやすくなります。上空の寒気も南下し、北日本や東日本は前線が通過しやすくなりそうです。このため各地でゲリラ雷雨が発生しやすくなるとみています。

9月もゲリラ雷雨が発生する予想ですが、北日本を中心に秋雨前線の影響を受けるため、広域での雨に変わっていく予想です。これにより、突発的かつ局地的なゲリラ雷雨の発生は徐々に減少していき、ゲリラ雷雨のシーズンも終息に向かう見通しです。

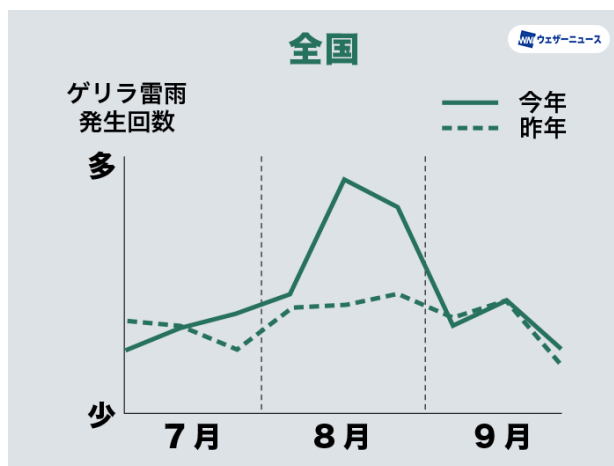


図 4. 7~9月のゲリラ雷雨発生傾向

<要因:湿った空気や上空の寒気の影響で発生するパターン>

今シーズンは、7月下旬から8月上旬にかけて太平洋高気圧とチベット高気圧に覆われます。高気圧の勢力が強い時期は広範囲でのゲリラ雷雨の発生が抑えられる日があるものの、晴れて気温が上がるため大気の状態は不安定になります。このため、山沿いを中心に積乱雲が発生・発達する見込みです。

8月中旬には高気圧の勢力が弱まり、湿った空気の流入や上空の寒気の南下、前線の通過があるため、このタイミングで全国的にゲリラ雷雨が発生しやすくなるとみています(図5)。

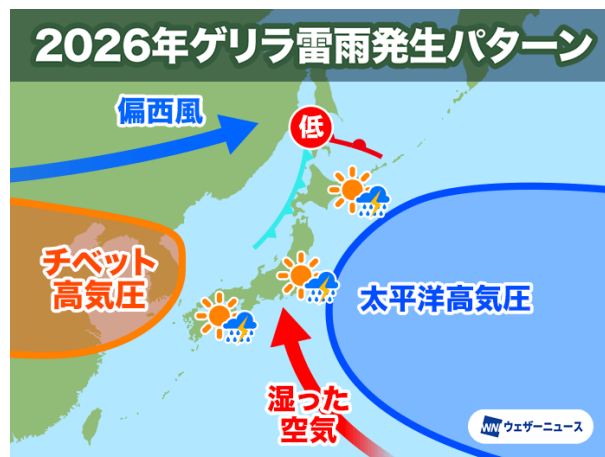


図 5. 2026年ゲリラ雷雨発生パターン

※1 「ゲリラ雷雨」について

本プレスリリースでは、「局地的大雨」を指す言葉として「ゲリラ雷雨」という言葉を使用しています。一般あるいはメディアでよく使用されている「ゲリラ豪雨」と同義です。

※2 「ゲリラ雷雨」発生回数の求め方

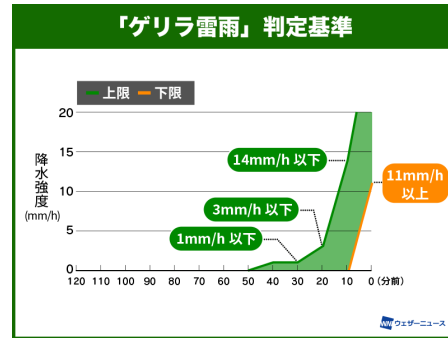
「ゲリラ雷雨」をもたらす雨雲・雷雲は「突発的」かつ「局地的」に発達するのが特徴で、予測が難しいとされてきました。また、限られた数しか設置されていないアメダス(全国約 1,300 か所)では、全ての降雨を正確に観測することは困難です。そこで当社では、スマホアプリ「ウェザーニュース」のユーザーから寄せられた“ザーザー”以上の降雨報告(※3)と、その時の気象データの分析結果から、ユーザーがゲリラ雷雨と感じる雨の時間変化の基準値(表 1)を求め、求めた基準値をもとに 10km 四方でゲリラ雷雨をカウントしています。

※3 降雨報告について

スマホアプリ「ウェザーニュース」を通し、「ポツポツ」、「パラパラ」、「サー」、「ザーザー」、「ゴォー」の 5 段階で報告されます。

時間(分前)	閾値
0	11mm/h 以上
10	14mm/h 以下
20	3mm/h 以下
30~40	1mm/h 以下
50~120	0mm/h 以下

表 1. 「ゲリラ雷雨」判定基準



◆2026 年のゲリラ雷雨予測強化シーズン開始

ウェザーニュースの予報センターでは、ゲリラ雷雨が多発する 7~9 月の間、今年もゲリラ雷雨予測の専任チームを構築し、体制を強化して日本全国のゲリラ雷雨をモニタリング・予測します。ゲリラ雷雨予測担当は、気温や風、水蒸気量などの気象データを解析することでゲリラ雷雨の発生リスクを予測します。そしてユーザーから届く雲や空の写真や動画、ライブカメラの映像から現地の状況を解析し、具体的な発生場所や時間を絞り込んで、ゲリラ雷雨発生約 30 分前までに「ゲリラ雷雨アラーム」をウェザーニュースアプリのユーザーに通知します。

昨年より全国に 3,000 台以上を展開している小型ライブカメラ「ソラカメ」の映像に AI 判定を導入しました。ゲリラ雷雨の原因となる積乱雲の発生・発達をいち早く検知し、ゲリラ雷雨予測の精度向上を目指します。



ゲリラ雷雨予測本部を発足

◆どこよりも詳細なゲリラ雷雨予測で事前の対策から避難、被害の軽減をサポート

お天気アプリ「ウェザーニュース」は、「ゲリラ雷雨アラーム」や「ゲリラ雷雨レーダー」など、ゲリラ雷雨に特化した機能を搭載しており、ゲリラ雷雨の詳細情報をピンポイントで確認できます。

また、超高解像度の雨雲レーダーでは、250m 四方/5 分間隔で雨雲の動きを表示し、「どのくらい雨が強まるのか」「雨が弱まるのはいつか」が詳しくわかります。さらに、ゲリラ雷雨の際に心配な落雷についても「落雷レーダー」で 3 時間先までの落雷予測を確認することができます。



ゲリラ雷雨アラーム/ゲリラ雷雨レーダー/落雷レーダー

## ◆エリア別のゲリラ雷雨傾向

<p>北 日 本</p>	<p>北日本のゲリラ雷雨など突発的な強雨や雷雨の総発生回数は、約 3.2 万回の予想です。約 2.1 万回発生した昨年と比べると 1.5 倍で、昨年よりも多くなり、発生のピークは 8 月中旬の見込みです。</p> <p>高気圧に覆われて雨雲の発生や発達を抑えられる日もありますが、日中の昇温などの影響で大気の状態が不安定となるため、ゲリラ雷雨としては山沿いを中心に発生する見込みです。</p> <p>7 月下旬までは東北に梅雨前線が停滞し、本格的なゲリラ雷雨の季節は 7 月下旬からになるとみています。8 月上旬は高気圧の勢力が強くなりますが、中旬は大気の状態が不安定となりやすく、ゲリラ雷雨の発生回数は増加傾向となりそうです。9 月は低気圧や前線の影響を受ける日が増加し、ゲリラ雷雨というよりは広域の雨となる日が増える予想です。</p>	<p>北日本</p> <p>ゲリラ雷雨発生回数</p> <p>今年 (実線) 昨年 (点線)</p> <p>7月 8月 9月</p>
<p>東 日 本</p>	<p>東日本のゲリラ雷雨の総発生回数は、約 3.4 万回の予想です。約 2.3 万回発生した昨年と比べると 1.5 倍で、昨年よりも多い発生となると考えられます。発生のピークは 8 月中旬の見込みです。</p> <p>主要地域の発生数も昨年より多く、東京都の発生回数は 1,300 回前後、愛知県は 1,800 回前後となる予想です。</p> <p>7 月中旬まで梅雨前線の影響を受けるため、本格的なゲリラ雷雨の季節は 7 月下旬からとなる見込みです。8 月上旬は高気圧の勢力が強く雨雲の発達を抑えられますが、中旬は高気圧の勢力が弱まり、気温の上昇や暖かく湿った空気、前線や上空の寒気の影響を受けて大気の状態が不安定になるとみています。太平洋側ほどゲリラ雷雨の発生回数は増加傾向となるので、お盆の時期は天気の変化に十分ご注意ください。9 月になると低気圧や前線の影響を受ける日が次第に増えて、ゲリラ雷雨というよりも広域の雨となる日が多くなる予想です。</p>	<p>東日本</p> <p>ゲリラ雷雨発生回数</p> <p>今年 (実線) 昨年 (点線)</p> <p>7月 8月 9月</p>
<p>西 日 本</p>	<p>西日本のゲリラ雷雨の総発生回数は、約 4 万回の予想です。約 3.7 万回発生した昨年と比べると、1.1 倍で概ね同程度の発生回数となる見込みです。発生のピークは 8 月中旬の予想です。</p> <p>主要地域の発生数も昨年と同程度となり、大阪府の発生回数は 500 回前後とみています。西日本で一番多いのは鹿児島県で 3,800 回前後の予想です。</p> <p>7 月中旬まで梅雨前線の影響を受けるため、本格的なゲリラ雷雨の季節は 7 月下旬からとなる見込みです。8 月上旬は高気圧の勢力が強く雨雲の発達を抑えられますが、中旬は高気圧の勢力が弱まり、気温の上昇や暖かく湿った空気、上空の寒気の影響を受けて大気の状態が不安定になるとみています。太平洋側ほどゲリラ雷雨の発生回数は増加傾向となるので、お盆の時期は天気の変化に十分ご注意ください。9 月は残暑が厳しいものの、次第に低気圧や前線の影響を受ける日が増えて、ゲリラ雷雨というよりも広域の雨となる日が多くなる予想です。</p>	<p>西日本</p> <p>ゲリラ雷雨発生回数</p> <p>今年 (実線) 昨年 (点線)</p> <p>7月 8月 9月</p>

◆都道府県別のゲリラ雷雨傾向

都道府県	2026年				2025年 (回)	過去5年平均 (回)
	発生回数 (回)	10km四方ごとの 発生回数(回)	2025年比(倍)	過去5年平均比 (倍)		
北海道	14190	15	1.4	1.9	10510	7430
青森県	2510	24	1.6	2.0	1621	1260
秋田県	3620	30	2.1	1.9	1762	1880
岩手県	3590	22	2.0	1.6	1830	2190
山形県	3110	33	2.1	1.9	1485	1620
宮城県	1550	21	1.5	1.3	1016	1160
福島県	3870	29	1.3	1.3	2937	3090
茨城県	1500	25	1.5	1.5	1001	990
栃木県	1940	31	1.1	1.2	1734	1690
群馬県	2530	41	1.5	1.6	1662	1600
千葉県	1250	23	1.6	1.4	802	890
東京都	1290	73	1.7	1.4	770	950
埼玉県	1010	28	1.3	1.4	777	700
神奈川県	550	22	1.9	1.3	292	420
山梨県	1630	38	1.6	1.9	1044	870
長野県	4630	35	1.5	1.6	3173	2900
静岡県	2170	28	1.8	1.3	1207	1670
愛知県	1770	35	1.9	1.4	912	1310
岐阜県	4130	41	1.6	1.5	2632	2700
三重県	2600	45	1.9	1.7	1407	1540
新潟県	2800	22	1.2	1.1	2414	2480
富山県	1520	36	1.6	1.5	946	990
石川県	1470	34	1.5	1.5	967	960
福井県	1700	41	1.6	1.7	1100	990
滋賀県	1810	47	1.8	2.1	987	880
京都府	1620	35	1.0	1.3	1554	1240
奈良県	1330	39	1.0	1.1	1324	1200
兵庫県	2840	34	1.3	1.5	2123	1840
大阪府	470	25	1.2	1.1	401	430
和歌山県	1330	29	1.3	1.2	1031	1120
鳥取県	1190	17	1.1	1.2	1052	980
島根県	1960	58	1.1	1.2	1815	1620
岡山県	1620	23	0.9	1.1	1883	1520
広島県	1850	22	0.9	1.0	2110	1820
山口県	1690	26	1.0	1.2	1619	1430
香川県	500	24	1.3	1.3	386	400
徳島県	1150	28	1.2	1.3	986	870
愛媛県	1720	29	1.5	1.3	1161	1290
高知県	2270	32	1.1	1.3	2058	1800
福岡県	1880	38	0.9	1.1	2155	1740
大分県	2490	41	1.3	1.7	1873	1430
佐賀県	770	32	0.8	1.0	1024	750
長崎県	1840	58	0.8	1.1	2468	1720
熊本県	2930	41	1.2	1.4	2451	2060
宮崎県	2490	34	0.9	1.1	2821	2270
鹿児島県	3810	56	1.1	1.2	3478	3210
沖縄県	6960	258	1.0	1.2	7339	5980
全国(合計)	113450	1798	1.3	1.4	88100	79880

※ 本傾向は、ウェザーニューズの長期予報と類似年の過去データを元に、統計的に算出したものです。

※ 発生回数は7月1日～9月30日の期間で算出しています。